

# CASBEE®新潟 | 評価結果 |



- 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版  
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

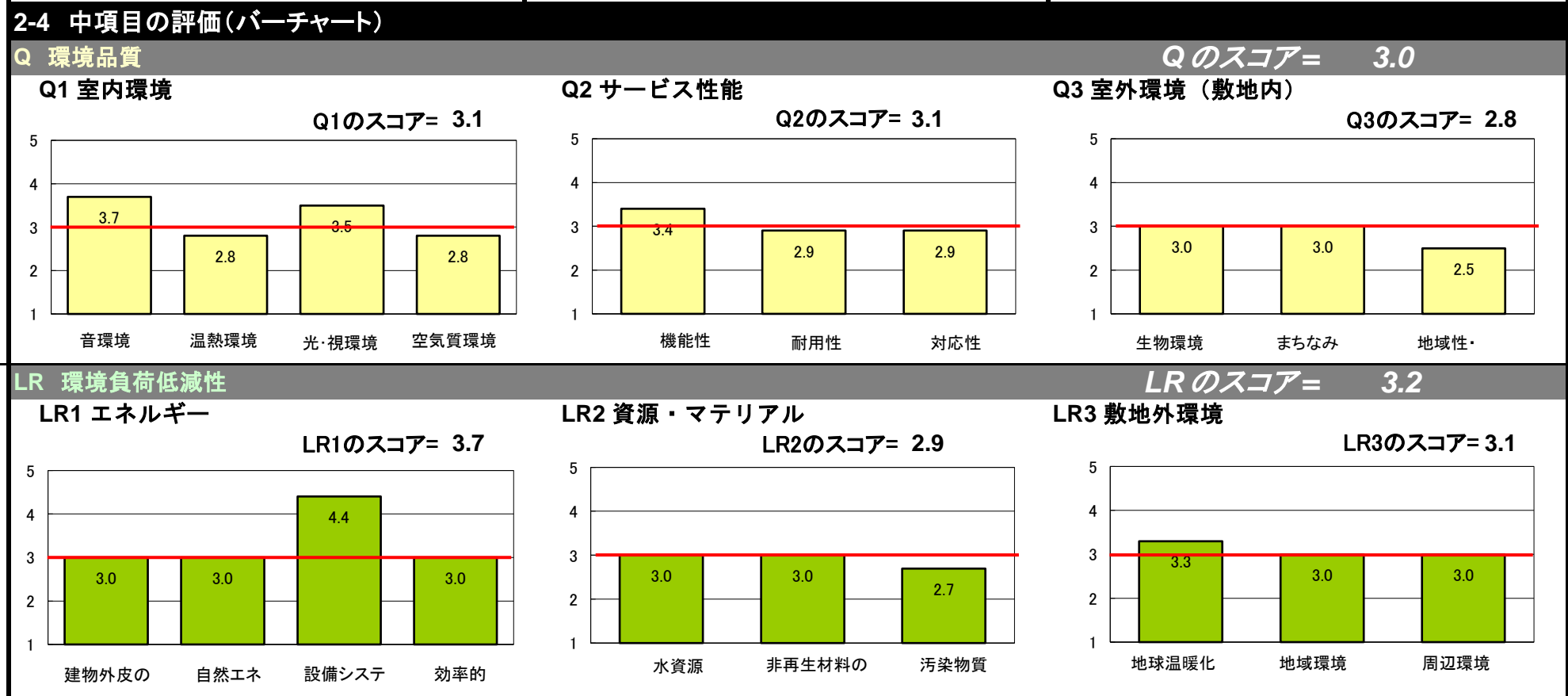
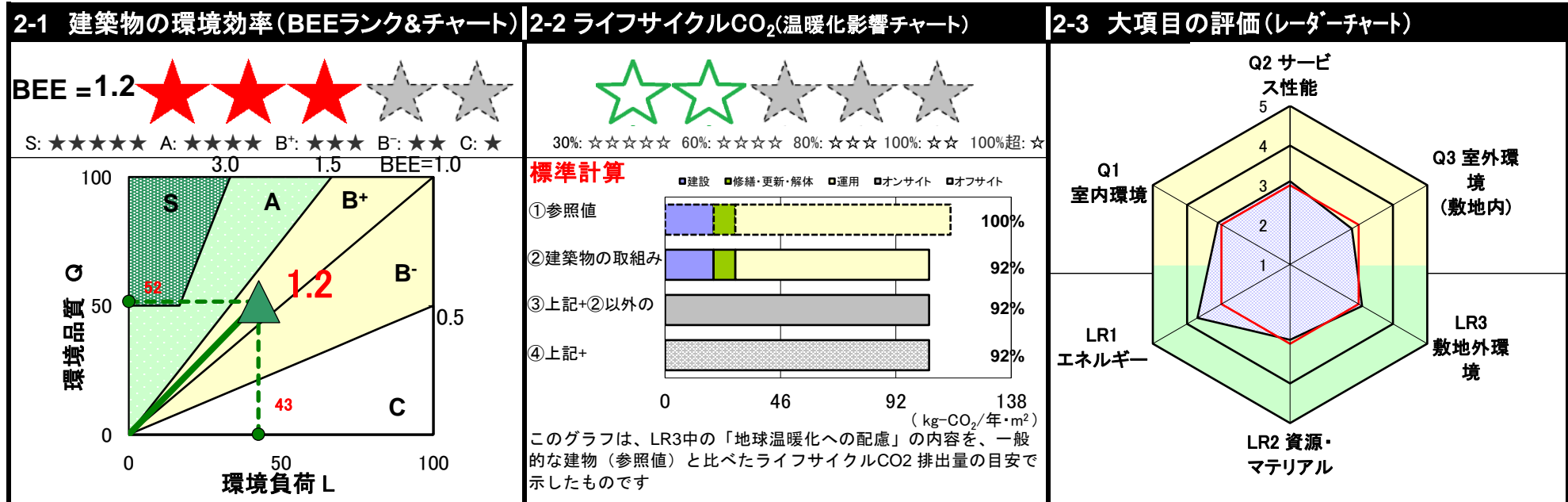
1. 建物概要					
建物名称	(仮称)ドーム新潟2				
建設地	新潟県新潟市中央区				
用途地域	商業地域、準防火地域				
建物用途	事務所,集合住宅,				
竣工年	2021年2月 予定				
敷地面積	696.81 m <sup>2</sup>				
建築面積	391.75 m <sup>2</sup>				
延床面積	2,767.49 m <sup>2</sup>				
階数	地上9F				
構造	RC造				
評価の段階	実施設計段階評価				
評価の実施日	2019年11月1日				
2. CASBEE新潟の評価結果					
		B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{51.6}{42.6} = 1.2$		
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★					
3. 新潟市の重点項目の評価					
1. 長寿化の取組み 建築物を長く、安心・安全に使い続けるために	平均スコア 3.0		バリアフリー計画	Q2.1.1.3	3.0
			維持管理	Q2.1.3	3.0
			設備の更新性	Q2.3.3	3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産を守るために	平均スコア 2.9		耐震・免震・制震・制振	Q2.2.1	3.0
			信頼性	Q2.2.4	2.8
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのために	平均スコア 3.0		雨水排水負荷低減	LR3.2.3.1	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	平均スコア 3.0		建物外皮の熱負荷抑制	LR1.1	3.0
			自然エネルギー利用	LR1.2	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	平均スコア 3.0		節水	LR2.1.1	3.0
			躯体材料以外でのリサイクル材の使用	LR2.2.4	3.0
			部材の再利用可能性向上への取組み	LR2.2.6	3.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために	平均スコア 2.5		生物環境の保全と創出	Q3.1	3.0
			敷地内温熱環境の向上	Q3.3.2	2.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の個性や魅力を活かしたまちづくりのために	平均スコア 3.0		まちなみ・景観への配慮	Q3.2	3.0
			地域性への配慮、快適性の向上	Q3.3.1	3.0
4. 新潟市の重点項目の配慮事項					
新潟市の重点項目に関する配慮事項を記載してください。					

# CASBEE®新潟

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0.2

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ドーム新潟2	階数	地上9F
建設地	新潟県新潟市中央区	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	120人
地域区分	5地域	年間使用時間	4,000時間/年(想定値)
建物用途	事務所,集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年2月 予定	評価の実施日	2019年11月1日
敷地面積	697 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	392 m <sup>2</sup>	確認日	2019年12月1日
延床面積	2,767 m <sup>2</sup>	確認者	



3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>快適な室内環境の提供</p>	<p>その他</p> <p>(自然エネルギー利用、LED照明などによる省エネを目指している)</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>寮室はJR沿線の敷地にあるため、遮音性の高いT-2等級のサッシを採用。 掃出し窓を設け、十分な昼光率を確保。また、各寮室にバルコニー及び庇を設け、グレア対策を考慮。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>高寿命な材料を使用し、建物の耐久性を配慮。 基準階の階高は3.5m~3.7mと比較的ゆとりのある計画とした。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>周辺建物に合わせた色調・デザインとした。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>(住戸部は省エネ基準に適合する断熱性能を確保し、住戸内の温熱環境にも配慮する。) (外断熱・複層ガラス採用による外皮性能の向上に努め、住宅性能温熱等級4を取得) (省エネルギー計画に役立てるよう、建物全域でエネルギーの消費量やCO<sub>2</sub>の排出量の把握、目標値の設定、削減活動を行う)</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>(節水型器具の採用等により、水資源保護に配慮する。) (雨水利用を図る)</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>適切な駐輪駐車台数を確保するとともに、交通渋滞に配慮した車両出入口を計画した。 (自転車通勤によるCO<sub>2</sub>排出量削減を図る。)</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される